

ヨコハマの国際事業の  
主な動きをお届けする

# YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成 29 年 11 月 21 日  
第 6 回アジア・スマートシティ会議特集版  
【発行】横浜市国際局政策総務課  
企画担当 045-671-4710  
ki-somu@city.yokohama.jp



【(第 6 回アジア・スマートシティ会議の様子)】

## 第 6 回アジア・スマートシティ会議の参加者が市内を視察しました

第 6 回アジア・スマートシティ会議プログラムの一環として、10月25日に、海外からの参加者を対象に市内施設の視察を行いました。



北部第二水再生センター、北部汚泥資源化センター、港北ニュータウンを紹介しました。



## 横浜国大、市大の大学生が都市開発の専門家と英語で議論しました

「第 6 回アジア・スマートシティ会議」の併催イベントとして、横浜国立大学及び横浜市立大学の学生が、海外の専門家や ADB エコノミスト等と英語で議論を行う「Yokohama Youth Event 2017」

を10月26日に開催しました。



本イベントは、本年 5 月に第 50 回アジア開発銀行 (ADB) 年次総会で開催された「次世育成セミナー」のフォローアップ事業として実施されました。



アジアにおけるスマートシティ開発や、日本企業のアジアでのインフラビジネスといった専門的なテーマについて、通訳なしで堂々と英語でディスカッションを行いました。



## 併催イベント：世界銀行、アジア開発銀行主催の都市開発会議が開催されました

第 6 回アジア・スマートシティ会議に先立ち、10/26 に世界銀行、アジア開発銀行主催による「スマートな都市開発会議」が開催され、開発機関、民間企業、政府機関、学術機関等から様々なステークホルダーが参加しました。



都市は、世界の GDP の 80% を占め、経済成長のけん引役を担っています。より効率的かつ効果的な都市開発に向けたソリューションや、実践的なデータ活用ノウハウについて活発な議論が行われました。



### 第6回アジア・スマートシティ会議が開催

#### ～分科会・ビジネスマッチング～

10月27日に、第6回アジア・スマートシティ会議が開催されました。



午前、午後の2部構成となっており、午前中の分科会は「スマートシティにおける廃棄物・汚泥処理」「省エネ、低炭素な都市づくりの実現に向けたアプローチ」「ICT・ビッグデータの活用」「日本の経験」の4つのテーマで同時に開催されました。



分科会の後に行われたネットワーキングランチでは、市内企業等のブース展示にも多くの参加者が足を運び、新たなビジネスの可能性を感じるマッチングの機会となりました。



また、会議には「世界を目指す若者応援事業」を通じて海外留学を経験した市内高校生も参加しました。慣れない国際会議の場に緊張しながらも、会議のメモをとったり海外からの参加者と会話したりするなど、留学で磨いた語学力を実践することができました。



### 第6回アジア・スマートシティ会議

#### ～全体会議～



午前中の分科会に引き続き、第6回アジア・スマートシティ会議の全体会議が開催されました。



パネルディスカッション形式で行われた全体会議では、分科会の議論の成果を共有しつつ、連携・協力に向けた意思の共有をはじめ、資金メカニズムの変革や新しいテクノロジーの意識的な活用、スマート化がもたらした成果の重要性等について、全参加者により議論しました。



クロージング・セッションで、横浜市の林市長とセブ市のオスマニア市長が、本会議の議論をとりまとめた「第6回アジア・スマートシティ会議 横浜宣言」を共に発表しました。

